

船舶事故調査報告書

平成22年7月1日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成21年5月28日 04時15分ごろ
発生場所	千葉県南房総市白間津漁港安房白浜港灯台から真方位044° 1,200m付近（概位 北緯34° 55.4′ 東経139° 56.6′）
事故調査の経過	平成21年5月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報</p> 漁船 <small>ごんじゅうろう</small> 権十郎丸、1.83トン CB3-82038（漁船登録番号）、個人所有 6.12m(Lr)×1.80m×0.76m、FRP ガソリン機関、60kW（漁船法馬力数）、昭和55年7月17日 船長 男性 70歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年6月18日 免許証交付日 平成19年1月30日 （平成24年3月11日まで有効） 同乗者 男性 77歳
死傷者等	死亡 1人（同乗者）
損傷	船体全般に擦過傷、船外機に濡れ損、網揚げ用ローラー水没、スパンカ用マスト折損
事故の経過	<p>本船は、船長が同乗者1人を乗せ、千葉県南房総市白間津漁港港口付近のえび刺網を仕掛けた場所に到着後、船長が操船し、同乗者が船首左舷側のローラーを使って揚網を開始したが、刺網を約半分くらい揚げたところに大きな波を右舷側から受け、平成21年5月28日04時15分ごろ、左舷側に転覆した。</p> <p>本船の船尾で操船していた船長は、転覆した本船の下から水面上に出て本船の船外機につかまっていたが、転覆から2時間ほどのちに仲間の漁船に救助された。</p> <p>同乗者は、ヘリコプターから降下した海上保安庁特殊救難隊の隊員により、06時15分ごろ、転覆した本船の船内から救助され、救急車で病院に搬送されたが、死亡が確認された。</p> <p>死因は溺水による低酸素血症と検案された。</p>
気象・海象	気象：天気 雨、 風向 北東、平均風速 約3.0m/s、最大瞬間風速 約6.2m/s、気温 約17.7℃ 海象：潮汐 上げ潮の末期

<p>その他の事項</p>	<p>白間津漁港は、港内から大洋に向け約130°の方向に、長さ約250m、幅約10～30mの船の通り道となる深み（以下「^{みおすじ}濤筋」という。）が掘り下げられており、濤筋の周囲は岩礁が散在していた。</p> <p>本船の刺網は長さ約400間（約730m）、深さ約1尋（1.8m）で、濤筋の出口付近から南東方向に向かって仕掛けられていた。</p> <p>同乗者は救命胴衣を着用していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 なし あり</p> <p>同乗者の死因は、溺水による低酸素血症であった。</p> <p>本船は、白間津漁港港口において、えび刺網を揚網中、右舷側から波を受け、左舷側に転覆した可能性があると考えられる。</p> <p>同乗者は、転覆した本船の下から脱出できなかった可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、白間津漁港港口においてえび刺網を揚網中、右舷側から波を受けたため、転覆したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	